

平成 28 年度水稲・麦類・大豆奨励品種の特性表

平成 28 年 4 月
山口県農林総合技術センター

水稲

種別	品種名	系統 育成場所 育成年	播種年度	試験地	移植期 月日	出穂期 月日	成熟期 月日	穂長 cm	穂重 g	実重 g/㎡	千粒重の多少・長短	稈型	穂長界の程度	粒数性	玄米					品質	栽培性					適地	栽培上の留意事項等	備 考			
															白米の多少	心白の多少	1%以上	千粒重	収量		黄いもち	緑いもち	白葉枯病	軟粒病	こま葉枯病			カラバニ	倒伏	備 考	備 考
															g	g	g/㎡	g	g/㎡		g	g	g	g	g			g	g		
中生	ひとめぼれ	母 コシヒカリ 父 結露 古川農試 平成9年	中10	本場 分場	5.15 5.10	7.27 7.20	9.3 9.6	86 81	19.5 19.3	425 479	竹少・短	偏穂型	粒数	粒数	854 853 868	22.6 22.2 22.8	58.4 40.7 85.9	上の上 中の上	竹強	竹強	竹強	中	中	中	竹強	山間～中間 中深田	耐倒伏性はやや高いため、多肥栽培は避ける。 いもち病に罹りため、適期防除に努める。	食味 食味	いもち病、 白葉枯病等 倒伏やや弱		
	コシヒカリ	母 農科22号 父 農科1号 福井農試 昭和31年	中54	本場 分場	5.15 5.10	7.26 7.00	9.2 9.8	83 89	18.3 18.6	419 445	少・短	中間	粒数	粒数	851 845 855	21.0 21.0 22.0	53.2 46.0 62.0	上の上 中の上	竹強	竹強	中	強	中	中	竹強	山間～中間 中深田 草種地帯	倒伏しやすいため、施肥・水管理に注意する。特に、多肥栽培は避ける。 いもち病に罹りため、予防、適期防除に努める。	食味優良 食味	いもち病 耐倒伏性 水長種		
	晴るる	母 ヤマホウシ 父 コシヒカリ 山口県試験場分場 平成9年	中6	本場 分場	5.15 5.10	7.29 8.2	9.7 9.12	85 81	18.9 18.8	409 480	偏穂型	中間	粒数	粒数	852 848 858	23.0 22.0 22.8	58.0 48.9 67.9	上の上 中の上	竹強	竹強	中	強	中	竹強	山間～中間 中～肥沃田	いもち病、軟粒病の適期防除に努める。 2次穂種の倒れやすいため、多肥栽培は避ける。刈遅れには注意する。	倒伏やや強 収量安定 食味 食味	いもち病、 軟粒病やや弱			
	日本晴	母 東海7号(特10) 父 東海 愛知農試 昭和33年	中44	本場 分場	5.10 5.10	8.19 8.11	9.19 9.25	83 83	19.7 20.1	375 452	少・短	偏穂型	粒数	粒数	844 850	22.6 23.0	58.4 68.0	上の上 中の上	竹強	竹強	中	強	中	中	竹強	中間～平田 肥沃田	葉色がやや濃いいため、生育初期の過肥に注意する。 こま葉枯病にやや罹りため、秋資圃圃土の秋刈田、こま葉枯病圃圃田は避ける。	収量安定 多収 白葉枯病強	こま葉枯病 やや弱 秋刈ちぎ		
	きぬむすめ	母 キヌヒカリ 父 愛知92号(特10) 九州沖縄農研センター 平成17年	中21	本場 分場	5.10 5.10	8.20 8.13	10.1 9.24	85 77	17.4 18.0	371 365	希・短	中間	粒数	粒数	846 849	21.8 22.1	55.0 64.0	上の上 中の上	竹強	竹強	中	強	中	中	竹強	中間～平田 中～肥沃田	初期の分けつ発生を促すため、深耕、排水管理を避ける。 穂数過多になると品質が低下するため、播種多肥栽培は避ける。 いもち病の適期防除に努める。	食味 食味	いもち病、白 葉枯病やや弱		
中生	中生新千本	母 農科22号 父 新 愛知農試 昭和25年	中42	本場	5.10	8.25	10.8	83	18.8	449	中・中	穂型	中	中	828	23.0	58.0	上の上 中の上	中	中	強	強	強	強	強	中間～平田 中～肥沃田	分けつが旺盛なため、基肥減肥、適切な水管理に注意し、過繁栄による倒伏を避ける。 青枯れが発生しやすいため、過肥にしない。	収量安定	白葉枯病弱 難白多い 青枯発生し やすい		
	七ノヒカリ	母 黄金穂 父 コシヒカリ 宮崎農試 平成元年	中18	本場	5.10	8.25	10.8	90	19.0	393	穂・短	偏穂型	粒数	粒数	831	21.9	55.2	上の上 中の上	中	中	強	強	強	強	強	福井内沿岸 の平田 中～肥沃田	やや高穂のため、多肥栽培しない。 米粒品質が低下しやすいため、早稲灌水をしない。 刈遅れとうす高米、前期米が発生しやすい。	食味 食味 食味	1穂数が多いと品質 変動が大きい		
中生	ミヤタマキ	母 南海7号 父 みのたまもち 宮崎農試 平成5年	中7	本場	5.10	8.23	10.7	85	19.8	274	少・中	穂型	粒数	粒数	830	22.2	58.1	上の上 中の上	竹強	竹強	竹強	中	中	強	強	中間～平田 中～肥沃田	ふん色が「黄白」のため、穂穂との選別に注意する。 1穂粒数の確保と食味向上のため、水控えや過肥は避ける。	食味多収 強種	刈遅れると 穂色が濃く なる		

(注) 1 奨励品種決定調査による
2 試験地は試験地は本場が農林総合技術センター(山口市大内)、分場が旧徳佐寒冷地分場(山口市阿東徳佐)
3 表中の値は農業試験場本場が平成23～27年の5カ年平均、徳佐寒冷地分場が平成10～18年の9カ年平均(「きぬむすめ」は平成16～18年の3カ年平均)

麦類

種類	品種名	来歴 育成場所 育成年	採用年度	播種期 月日	出穂期 月日	成熟期 月日	穂長 cm	穂長 cm	穂数 本/m	芒の長短	株の調節	脱粒性	播種程度	千粒重 g	容積重 g/L	収量 kg/a	品質	子実タンパク% %	抵抗力				栽培上の留意事項等	概評		
																			うどんこ病	赤かび病	結実病	倒伏		穂発芽	優 点	欠 点
小 麦	ふくさやか	母 9044' 344' 父 9044' 4344' 近中四農研セナ 平成14年	平18	11.15	4.12	6.2	82	8.0	405	中	竹開	中	II	35.1	799	38.3	中の上	9.5	竹弱	竹弱	中	強	中	短穂で倒伏に強い。穂肥を中心に通常より施肥量を増やすことで増収をねらう。穂発芽性は「中」のため、適期収穫に努める。赤かび病には強い。防除を徹底する。	早生、良質、多収 倒伏に強い 製めんの色と粘弾性優れる	穂発芽性が不十分 うどんこ病にやや弱い
	ニシノカオリ	母 北見春42号 父 西海157号 九州農試 平成11年	平15	11.15	4.13	6.3	88	7.0	427	竹長	竹開	中	I	40.6	805	35.4	中の中	11.4	強	中	竹強	強	中	極端な早穂き、厚穂きは避け、穂肥重点施肥とし収量性改善に努める。穂発芽性は「中」のため、適期収穫に努める。赤かび病には強い。防除を徹底する。	早生、良質 子実タンパクが高い	収量性が低い 穂発芽性が不十分
	せときらら	母 A*9/B//A*9/B 父 A*9/B//A*9/C 1.6 (B*9/B) 1.6 (A*9/C) 1.6 (B*9/B) 近中四農研セナ 平成25年	平25	11.15	4.11	6.4	92	8.3	426	中	竹開	中	I	40.0	802	49.6	中の上	9.3	弱	強	中	竹強	強	過繁茂になると倒伏する可能性があるため、極端な早穂きは避ける。子実タンパクが低くなる傾向があるため、開花期追肥の実施等により子実タンパク向上に努める。	良質、多収 製パン性を高める遺伝子を持つ	子実タンパクがやや低い
標 麦	トヨノカゼ	母 四系9123 父 四園根90号 近中四農研セナ 平成17年	平22	11.15	4.5	5.24	83	5.3	373	竹長	竹開	難	V	33.0	833	47.7	上の上	-	中	竹弱	竹強	竹強	竹強	湿害に強い。排水対策を徹底する。赤かび病には強い。防除を徹底する。過繁茂になると、倒伏が多くなる。	強穂、多収	赤かび病にやや弱い
二条大麦	アサカゴールド	母 (はるな二条/倉系2660) F ₁ 父 関東二条19号 福岡農試 平成2年	平8	11.15	4.5	5.24	93	6.5	516	中	竹開	中	I	45.3	703	41.5	中の下	-	竹弱	中	極強	竹弱	湿害に弱い。排水対策を徹底する。赤かび病には強い。防除を徹底する。ビール契約麦は、発芽勢を確保するため、適期収穫、適切な乾燥、調製に努める。	結実病に極めて強い	耐倒伏性やや劣る。 うどんこ病にやや弱い	
	サチホゴールデン	母 大系R4224 父 関東二条29号 栃木農試 平成21年	平26	11.14	3.31	5.19	90	6.4	548	竹長	竹開	竹難	I	49.6	704	45.4	中の中	-	極強	竹強	竹強	竹強	中	出穂が早く、凍害が発生する危険があるため、極端な早穂きは避ける。排水対策、赤かび病の防除を徹底する。	良質、結実病に強い 醸造適性が優れる	側面裂皮の発生がやや多い

(注) 1 奨励品種決定調査による。ただし、数値以外の特性は育成地のデータによる。平成27年産の「ニシノカオリ」と「せときらら」には開花期追肥を実施。
2 表中の値は、23~27年産の5カ年平均。ただし、「サチホゴールデン」は24~27年産の4カ年平均。

大豆

秋 夏 大豆 別	早 中 晩	品種名	来歴 育成場所 育成年	採用年度	試験地	播種期 月日	開花期 月日	成熟期 月日	生態型	主莖長 cm	分枝数 本/株	主莖節数 節	胚軸色	花色	子実			百粒重 g	100粒重 g	紫斑病抵抗性	萎化の難易	倒伏の難易	収量 kg/a	品質	子実タンパク% %	用途	栽培上の留意事項等	概評		
															種皮色	臍色	粒形											優 点	欠 点	
秋大豆	中の晩	サチユタカ	母 7カサカエ11父エンレイ 九州農試 平成13年	平12	本場 分場	6.14	7.29	10.27	IIIc	47	5.7	14.3	紫	紫	黄白	黄	珠	大の小	33.4	755	強	難	難	37.5	上の中	46.1	豆腐 (味噌醤油)	実数が少ないため、栽培本数を確保する(15本/m程度)。播種が7月中旬以降となる場合、栽培本数を20~25本/mの密植とする。カメムシ防除を徹底する。ウイルス病に強い。黒大豆の隣接は避ける。	強莖、良質、多収。 紫斑病に強い。 成熟期の落葉が良い。 加工適性優れる。	やや少美
						5.31	7.26	10.22		53	7.6	15.8							33.9	-				37.4		45.2				

(注) 1 奨励品種決定調査による
2 試験地は本場が農林総合技術センター(山口市大内)、分場が旧徳佐寒冷地分場(山口市阿東徳佐)
3 表中の値は、本場は平成23~27年の5カ年平均。分場は、台風被害の大きかった平成16年を除く11~18年の7カ年平均